

第一回 「スポーツ吹矢」誕生！！

青柳清は41歳で出版社を脱サラして1978年（昭和53年）、東京・銀座で株式会社ダイセイコーを立ち上げました。ユニークな社名は友人たちから「大成功してほしい」と励まされたからです。また青柳清が東京・銀座にこだわったのは「銀座なら世界でも通用するから」でした。

青柳清は「社会のお役に立つ」ことをビジネスの理想にしてきました。また青柳清は「変化しないのは悪である」とまで言って最初の書店経営から時代の求めに応じ社業をどんどん変化させて会社を発展させてきました。

そんな青柳清が「スポーツ吹矢」を創始したのは今から25年以上も前のことでした。

あるとき青柳清の耳に「中国の気功が身体を丈夫にする」という情報が入って来ました。青柳清は体が弱い方で「なんとか健康になりたい」と日ごろから願って来ました。ですから気功の話聞いて「これだ」と思った青柳清はすかさず中国の杭州へ飛び、その療養院に入りました。気功は日本でも体験できましたが本場で健康効果を確認できたのです。療養院では朝起きると、まず気功を行い、次に薬湯に入る。それからマッサージを受け、さらに太極拳を学ぶという毎日でした。

楽しくなければ吹矢じゃない!!

青柳清は東京に戻ってから、早速、気功の腹式呼吸を自宅のベランダで毎朝、実践しました。ところがです。決して怠け者でないのに、どうも長続きしないのです。

「どうしてなんだ」「どうしてなんだ」と考え抜いた結論は「要するに、つまらないからだ」でした。あきらめきれず青柳清は「楽しく、手軽に腹式呼吸ができる方法はないものだろうか。面白く実践できる道具はないだろうか」と真剣に考えました。

そして訪ね、探し出したのが「吹矢」でした。

青柳清はうれしさのあまり会う人会う人に腹式呼吸を吹矢で楽しむ話を広めました。その中で付き合いのある医師が「健康にいいものなのだから独り占めしないで新しいスポーツとして社会に広めたらいい」とアドバイスしてくれました。これを聞いて青柳清は、ひらめきました。「吹矢をスポーツにすれば楽しく健康になれる。老若男女が手軽に楽しめるから国民的なスポーツに発展する可能性がある」と。

そして「ならば骨を折ってみるのも悪くない」と考えました。

「スポーツ吹矢」が誕生した瞬間でした。

すかさず青柳清は大胆な方法を思いついて日本全国に「スポーツ吹矢」を発表します。

(以下次号)



NHKのスタジオでスポーツ吹矢を実演する青柳清会長
(平成16年9/27の「こんにちは、いっと6けん」で放送)